

瀬部小だより 5月号

平成17年5月19日



瀬部小で具現化しようとしているビジョン（PTA総会での話）をお知らせします。

学校教育に対する構え

瀬部小学校完結型ではなく、瀬部小学校で学んだことが将来、近くは中学校、遠くは社会で生きる、人生を貫く教育理念でありたいと思っております。今年度は、特に西成中学校との連携強化を強めていきたいと思っております。



本校の教育目標は「子どもたちの様々に伸びる可能性に期待して、よく学び、明るく、たくましく生きる瀬部の子を育てる。」です。この趣旨は、

子どもたちの「様々に伸びる可能性」を発見し、良さを伸ばしていくことが私たち瀬部小教師の勤めです。そこで、私たち教職員は次の3つの資質を習得させます。

「よく学び」は、これからの情報社会を生き抜く生涯学習の資質です。

そのためには、絶えざる教師の授業力向上が不可欠です。全教師が相互に自主公開授業をし、教育技術力を

高めます。

「明るく」は、これからの激変の社会を、未来を信じ楽観的に生きぬくためには必要不可欠な資質です。そのためには、教師もともに明るく向上していこうと努力します。

「たくましく」は、現在の不透明な国際社会で、どんな困難にも耐え挑戦していくためには重要な資質です。そのためには、様々な学校生活の場面で、あきらめないで、努力すればできることを体験させます。

ですから、私たち教職員は「よく学ぶ」姿勢と「明るさ」と「たくましさ」を兼ね備えて「生きる」、「瀬部の子」を育てます。そのために、私たちは、瀬部小学校の全教育活動が、子どもたちの自主自律できる機会であると捉えて取り組みます。

「瀬部の子」を育てることへのこだわり。

- ・それは、瀬部・時之島地域の精神的な風土の特徴は、誠実さであり、地域に育つ瀬部の子どもの姿に大きく影響を与えています。

私は、誠実とは正直であると共に、言葉と行動が一致していることだと思っております。瀬部の子は、言行が一致しています。ご当地とも関係のあるとも言われている熊沢蕃山の知行合一の思想と合い通じるところがあると思っております。

- ・自らの生き方に自信を持ち、広く国際社会で活躍できる人を育てるために、瀬部の地

域に生きる子を意識させたいと思います。そして、瀬部の地域社会を大切にすると共にコスモポリタンである、世界を意識した国際感覚のある子どもを育てます。

- ・地域で育まれる子ども 地域を大切にする子どもに育てます。そのために学校がリーダーシップを発揮します。今年度は、PTAの皆さんに登下校での下校ボランティアをお願いしたいと思います。また、地域見の守り隊への依頼をしております。

そして、教育目標に基づいて、本校児童の4つの理想像（指標）を挙げています。

児童への指標

「生涯にわたる生きる力の基礎」を培ってやりたい。「生きる力」の基礎を培った人間の育成を、本校では、**子どもを育て、伸ばす時の4つの規準**としています。

- ・「いのち」を大切にする子・・・「自・他の生命の尊重」です。
- ・「たくましく」生きる子・・・「困難に負けず、挑戦」です。（屋内運動場の南の銅像、昨年度のPTA総会で紹介した、昭和30年に退職された柴田勝一教頭先生の「勤考する子」に当たります。）
- ・「すすんで学習」する子・・・「自学の態度」です。
- ・「思いやり」のある子・・・「他人の思いを尊重する心」です。

本年度の実践

豊かな心の育成に向けて、児童理解やあいさつなどの礼儀を身につける生徒指導を進めてまいります。

保護者との話し合いを持ちます。1学期は学年懇談会

- ・個人懇談会、2学期は個人懇談会、3学期は学年懇談会を持ちます。

学ぶ意欲と基礎学力の定着 = 分かる授業 = 特に国語と算数で落ちこぼれない(分かる) 学習指導 = 教職員の授業力を高め、分かる授業を進めます。

子どもの指導を第一に考えます。ですから、朝の職員打ち合わせをなくし、8時30分には子どもの指導に当たります。

前年度の保護者アンケートからお分かりのように、十分本校の意図が伝わらないこともありましたので、児童の怪我などの連絡・欠席者への温かい配慮などを始めとして保護者の皆様との積極的な関わりを進めます。

瀬部小学校は、明治40年より平成19年に100周年を迎えます。再来年は、華美に流されず、子どもたちの学びを確かにしていく流れの中で、祝ってまいりたいと思います。そして、どうか、おらが町の瀬部小学校をご支援いただきたいと思います。

最後になりましたが、先ほども述べました江戸時代の陽明学者 熊沢蕃山の言葉に、「憂きことの なおこの上に 積れかし 限りある身の 力試さん」とあります。力不足ではありますが、精一杯努力する所存です。

